

良心の碑

いしづみ

聖書の言葉

「だから、あなたがたのためにわたしが受けている苦難を見て、落胆しないでください。この苦難はあなたがたの栄光なのです。」
(エフェソの信徒への手紙3章13節)

この聖句は、新島が1886年東華学校開設準備のため仙台を訪れたとき、長老派の牧師押川方義に請われて同派の仙台教会で行った説教「愛とは何ぞや」の主題です。

この説教で新島は「かつての日本における『愛』とは君臣の愛、夫婦の愛、親子の愛の如くで、キリスト教が入るまでは神の愛（キリストの愛）は説かれたことがなかった」と説いています。（三瀬安彦）

生誕之地碑前祭



(▲植木学長・前田町会長・横山東京校友会会長)

新島襄先生の生誕をお祝いする大学主催の「生誕之地碑前祭」が3年ぶりに実施。コロナ感染に配慮して「関係者のみの参加」でした。「讃美歌とカレッジソングはテープで音楽を流すだけ」というアナウンスにもかかわらず思わず声を出して歌ってしまう人があちらこちらに見かけられました。

窓 「新島襄生誕之地碑前祭」の日に開催された「初春縁日広場」にはさまざまな遊びが準備され、私がアシスタントを担当した「七五三太出世すごろく」のコーナーにも多くの家族連れが立ち寄ってくれた。すごろくは新島襄が神田で生まれてから、アメリカにわたり、アーモスト大学に入学、そして帰国後に同志社英学校を設立するまでの経過をたどり、新島襄、それに同志社の成り立ちを知ってもらうという企画だった。

初春縁日広場



碑前祭の後、東京校友会主催で縁日広場が開かれました。神田地域の親子連れがたくさん参加して、縁日広場はおおいに賑わいました。東京新島研究会から、伊藤さん(玉入れ)、山本さん・江澤さん(こま回し)、夏原さん・福間さん(すごろく)が「縁日」をお手伝いしました。

縁日広場は、錦町三丁目前田智彦町会長の、シビれるような木遣りと気合いの入った一本締めでお開きとなりました。

午餐会

60名余が参加して例年通り午餐会も開催されました。当会からは13名が参加。校友会中村副会長の英語のスピーチと乾杯に同志社らしさを感じました。春の陽気に恵まれた楽しい一日でした。



参加してくれた1人のご婦人が「岩倉使節団」の写真が使われたコマにたどり着いたとき、「新島襄はどこに写っているのですか」と問われ、答えに詰まった。この写真は岩倉具視を木戸孝允や大久保俊通らが困んでいる、歴史の教科書でおなじみのものだが、新島は含まれていない。
『アメリカの岩倉使節団』(宮永孝著)によると、アーモスト大学在学中の新島は1872年2月27日、「アメリカの教育制度

についての知識を授けるために、森(有礼)弁務少使に招請されてワシントンにやって来た」。新島は使節団と教育施設を訪れるなど、多忙なスケジュールをこなし、木戸孝允は新島の印象を「大学校(アーモスト大学)を経、此度文部の事にも尽力せり、可頼一友なり」と『木戸孝允日記』に記している。
新島がこの時、明治政府の一員となるように強く求められたがこれを断り、同志社英学校の創立に至ったことは広く知られ

役員会の議題・話題

新島先生の足跡を訪ねる会(一泊旅行)

目的地：山中湖村徳富蘇峰館ほか

実施日：7月上旬

担当：上中・江澤・木原・支倉

バス旅行を計画しています。4月5日に下見をして、ホテル・昼食場所などを決定する予定です。

岡山における新島先生の働き

三瀬会長より「岡山における新島先生の働き」をTask forceをつくり研究してみてもどうかとの提案があり、今後具体的に詰めていくことになりました。

講演会

10月の講演会に岡山県高梁市の高梁基督教会牧師・八木橋康広先生をお招きすることになり、先生からご快諾いただきました。

(文責：支倉清 写真：江澤香)

3月例会案内

日時 3月6日(月)13:30～15:30

内容 研究発表(江澤 香)

テーマ「備中松山藩と新島襄、そして福西志計子・2」

岡山県初の女学校の設立者・福西志計子の生い立ち、信仰、業績ならびに新島襄との関係を明らかにします。

役割分担

受付(大石・八戸・小林) 司会(木原)

聖書(半田) 祈禱(小崎)

写真(徳弘・片桐)

ている通りである。使節団の写真が撮られた時のいきさつは不明だが、私はご婦人に「レンズの外側にいたのでしょうか」とごまかした。レンズという政府の枠の中に閉じ込められることなく、世に広く人材を輩出するという新島の矜持をこの写真が暗示する。同志社建学精神の一端を1人のご婦人が教えてくれた1日であった。

(福岡 宰)